



Japan
Food
Research
Laboratories

第 11018667014-01 号
2011年(平成23年)03月30日

試験報告書

依頼者 ニチアス株式会社

財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代木52番1号



検体 T/#1120

表題 浸出試験

2011年(平成23年)03月08日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

浸出試験

1 依頼者

ニチアス株式会社

2 検 体

T/#1120

3 試験概要

検体についてJIS K 6353 : 1997「水道用ゴム」により，濁度等の浸出試験を行った。

4 試験結果

結果を表-1に示した。

表-1 浸出試験結果

項目	結果	定量下限
濁度	0.05度以下	***
色度	0.5度以下	***
有機物[全有機炭素(TOC)の量]	0.4 mg/L	***
残留塩素の減量	0.7 mg/L	***
臭気	異常なし	***
味	異常なし	***
亜鉛及びその化合物	0.02 mg/L	***
フェノール類	検出せず	0.0005 mg/L

5 試験方法

1) 浸出操作

検体を水道水(東京都多摩市)で1時間流水洗浄した後、精製水で3回洗浄した。次に、浸出液(pH7.0±0.1, 硬度45±5 mg/L, アルカリ度35±5 mg/L, 残留塩素0.3±0.1 mg/L)で3回洗浄した。洗浄後、検体を浸出液に浸漬し、約23℃で16時間静置して得られた液を試料液とした。また、浸出液を同条件で静置し、空試験液とした。試料液及び空試験液について、濁度等の試験を行った。ただし、残留塩素の減量の試験については、浸出液の残留塩素濃度を1.0～1.2 mg/Lとした。

なお、検体の接触面積比は20 cm²/Lとし、コンディショニング操作は省略した。

2) 測定方法

測定方法を表-2に示した。なお、残留塩素の減量については、試料液及び空試験液の残留塩素を測定し、その差から残留塩素の減量を求めた。

表-2 測定方法

項目	測定方法
濁度	積分球式光電光度法
色度	透過光測定法
有機物[全有機炭素(TOC)の量]	全有機炭素計測法
残留塩素の減量	DPD比色法
臭気	官能法
味	官能法
亜鉛及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
フェノール類	固相抽出-誘導体化-ガスクロマトグラフ質量分析法

以 上